

〈今日の紙面〉

- ・「食料・農業 知っておきたい話」—89—(2面)
- ・食料自給率 生産努力目標の達成状況 (3面)
- ・キャベツ、「よく食べる野菜」トップ (4面)
- ・トラクター等からの転落に注意 (5面)
- ・遮へい壁から散水で臭気拡散抑制 (6面)
- ・黒毛和種 断角角度工夫し飼育効率化 (7面)
- ・畜産物需給見通し (8面)

# 開拓情報

発行所  
**公益社団法人全国開拓振興協会**  
 〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13  
 TEL 03-3586-5843  
 FAX 03-3586-5846  
 ホームページ <http://www.kaitakusya.or.jp>  
 全日本開拓者連盟・全開連・全国開拓振興協会共同編集

2020年度 開拓肥育牛生産支援特別対策事業 手続き概要図

月	会員・会員以外の開拓農家	全国開拓振興協会	備考
9月		開拓肥育牛生産支援特別対策事業実施要領制定	
10月	開拓肥育牛生産支援特別対策事業参加申請書(様式1,集計表)(10月末日までに提出)		会員等は、事業参加申請書を提出してください。
11月		開拓肥育牛生産支援特別対策事業参加承認書(様式2)	
12月			
1月	開拓肥育牛生産支援特別対策事業助成金交付申請書(様式3,集計表)(1月末日までに提出)		
2月		開拓肥育牛生産支援特別対策事業助成金交付通知書(様式4)(2月末日までに通知) 助成金交付	協会は、助成金交付申請書を審査の上、助成金交付通知を行うとともに助成金を交付(3月)します。
3月			
4月			
5月	開拓肥育牛生産支援特別対策事業完了報告書(様式5,集計表)(5月末日までに提出)		会員等は、事業完了報告書を提出してください。(締切:5月末日)
6月	返還金がある場合は6月末日までに返還	開拓肥育牛生産支援特別対策事業確定通知書(様式6)	協会が助成額を確定、通知します。返還金がある場合は6月末日までに返還してください。

## 開拓肥育牛生産を支援

### 全国開拓振興協会 コロナ影響で特別対策実施

全国開拓振興協会(西谷悟郎会長)は、今年度から実施する「開拓肥育牛生産支援特別対策事業」の参加申請受付を開始した。新型コロナウイルス感染症拡大の影響による牛肉価格の下落に見舞われた開拓農家経営を支援するもので、肥育出荷牛が事業の要件を満たす場合、助成金を交付する。事業参加を希望する会員及び会員の構成員以外の開拓農家は、10月末日までに事業参加申請書を提出する。協会は内容を確認し、事業参加承認を通知する。

#### 肥育出荷1頭当たり1万円助成

この特別対策事業は、急支援特別対策事業の「開拓農家の経営の維持と営農の振興を図ることを目的」としている。したがって、助成金の交付対象者は、協会の会員及び会員の構成員以外の開拓農家(以下「会員等」とする)とする。交付基準は、ALIC事業の奨励金の交付対象となった開拓農家の肥育牛について、会員等から50頭以下50頭を上限。①年間出荷実績1〜150頭以下50頭を上限。②同151〜300頭以下70頭を上限。協会へ助成金交付申請があった場合に、協会は会員等に対して1頭当たり1万円を交付する。ただし、助成金の交付対象頭数については、1経営体当たりの年間出荷実績を基に、次のとおり交付上限頭数を設定する。

農水省は8月5日、19年度食料需給表(概算)を公表した。畜産物のうち肉類(牛・豚・鶏)の自給率(重量ベース)は65.5%、国内消費仕向量は65.5万3千ト(0.1%増)となった。肉類の国内生産量は340万ト(前年度比1.0%増)、輸入量は32.5万1千ト(1.8%増)で、その合計から輸出量を差し引き、在庫の増減を加味した「国内消費仕向量」は65.5万3千ト(0.1%増)となった。100、以下同)は前年度から1割上昇し、52%となった。15年度から4年連続で1割ずつ低下していたが、豚肉の上昇などにより下止まった。ただ、牛肉は国内生産量の減少などで1割低下している。

肉類の国内生産量(枝肉換算、以下同)は340万ト(前年度比1.0%増)、輸入量は32.5万1千ト(1.8%増)で、その合計から輸出量を差し引き、在庫の増減を加味した「国内消費仕向量」は65.5万3千ト(0.1%増)となった。品目別にみると、牛肉は前年度から1割上昇し、52%増、同91万5千ト(0.1%増)、同25.3万7千ト(1.0%増)となった。肉類全体の国民1人・1年当たり供給純食料(精肉換算、年間消費量に相当)は、33.5キログラム(0.6%増)と伸びた。うち牛肉は6.5キログラム(1.1%増)、豚肉は12.8キログラム(0.4%減)、鶏肉は13.9キログラム(1.4%増)。

近年、畜産物の消費量が安定的に推移している中、牛肉の国内生産量は減少傾向で推移。16年度以降、牛肉需要の一層の高まりで輸入量が増加し、自給率は低下傾向となっている。

## 肉類自給率52%、1割上昇

### 19年度牛肉は1割低下の35%

拓肥育牛生産支援特別対策事業(計画・実績)集計表(以下「集計表」)に取りまとめの上、「事業参加申請書」(様式1)とともに協会に提出する。助成金交付申請書等の提出期限は、21年1月末日。協会は審査の上、会員等に助成金交付通知及び交付(3月)を行う。

20年度の事業費は、8千万円を限度とする。本事業は、20年度から22年度までの3年間実施する。ただし、21年度及び22年度は、21年度以降の肥育牛経営等緊急支援特別対策事業の動向を踏まえ、事業内容を検討する。

## 地域づくり人材育成、来年度開始へ

### 農水省・新しい農村政策検討会

農水省は8月28日、「新しい農村政策の在り方に関する検討会」を開催し、同省は、農村を支える「地域づくり人材」の育成のため、研修制度を来年度から始める方針を提示した。

農水省は、特に中山間地域での少子高齢化・人口減少、地域への目配りを不足、地方自治体職員数の減少などの実態を踏まえ、農村の振興に関する施策を推進していく必要がある。そのため、新たな食料・農業・農村基本計画において、省内に「農村政策・土地利用の在り方プロジェクト」を設置し、総合的な議論を行い、必要な施策を実施する。

新しい農村政策の在り方に関する検討会(座長・小田切徳美・明治大学農学部教授)は、同プロジェクトの一環で開催され、今会合が4回目。同省は、第3回会合まで委員の意見及び対応方向を整理し、地域づくり人材の育成の仕組み等の方向性を示した。

・育成すべき人材像は、地域(集落あるいはそれ以上の範囲)の活性化に向けて、住民が自発的に考え、気付き、行動できるよう、継続的にコーディネートする人材。

・研修制度の方向性として、地域の実情に応じて地域づくりのプロセスを踏まえて実施する。

・将来的には、都道府県や大学などに、研修の実施主体の裾野が広がることを目指す。

同省は今後、具体的なカリキュラムや教材など、制度の詳細設計を進め、同検討会に報告した上で、来年度からの研修開始を予定している。

#### 地域づくり人材育成、来年度開始へ

農水省は8月28日、「新しい農村政策の在り方に関する検討会」を開催し、同省は、農村を支える「地域づくり人材」の育成のため、研修制度を来年度から始める方針を提示した。

新しい農村政策の在り方に関する検討会(座長・小田切徳美・明治大学農学部教授)は、同プロジェクトの一環で開催され、今会合が4回目。同省は、第3回会合まで委員の意見及び対応方向を整理し、地域づくり人材の育成の仕組み等の方向性を示した。

・育成すべき人材像は、地域(集落あるいはそれ以上の範囲)の活性化に向けて、住民が自発的に考え、気付き、行動できるよう、継続的にコーディネートする人材。

・研修制度の方向性として、地域の実情に応じて地域づくりのプロセスを踏まえて実施する。

・将来的には、都道府県や大学などに、研修の実施主体の裾野が広がることを目指す。

#### 全国開拓代表者大会を中止

全日本開拓者連盟(菊地文夫委員長)は9月1日、中央常任委員会を開き、全国開拓代表者大会及び全国開拓青年・女性を組み合わせ、研修会を実施する。対象は主に市町村職員。研修は現場実習を重視し、オンライン講座も導入する。さらに、地域づくりに意欲のある者が研修を希望すれば受講可能とし、地域づくり人材の裾野を広げていく。農協職員、集落支援員等を想定。

・研修終了生、講師陣をつなぐネットワークを構築する。同省も参画し、現場の実態把握機能を強化することで、現場の声を政策立案に反映させる。

・研修及び研修終了生の活動を後押しするため、国の支援方針について、継続的に検討する。

・研修終了生、講師陣をつなぐネットワークを構築する。同省も参画し、現場の実態把握機能を強化することで、現場の声を政策立案に反映させる。

#### 全日本開拓者連盟

全日本開拓者連盟(菊地文夫委員長)は9月1日、中央常任委員会を開き、全国開拓代表者大会及び全国開拓青年・女性を組み合わせ、研修会を実施する。対象は主に市町村職員。研修は現場実習を重視し、オンライン講座も導入する。さらに、地域づくりに意欲のある者が研修を希望すれば受講可能とし、地域づくり人材の裾野を広げていく。農協職員、集落支援員等を想定。

# 環境保全 麦・豆類の実施面積8%増

## 19年度 日本型直接支払制度の実施状況

農水省は8月28日、19年度の日本型直接支払制度(多面的機能支払交付金、中山間地域等直接支払交付金、環境保全型農業直接支払交付金)の実施状況を公表した。環境保全型農業直接支払交付金の実施面積(前年度比0.5%増)など、3交付金の対象面積は、概ね

取組」が2万8525戸(前年度比1.1%減)、次いで「カバークロップ(緑肥)」1万9066戸(1.2%増)、「堆肥の施用」1万846戸(2.9%増)、「有機農業」1万3402戸(0.5%減)の順となっている(表1)。

表1 支援対象取組の実施面積 単位:ha

	2018年度		2019年度		前年度との比較	
	面積	構成比(%)	面積	構成比(%)	対差	増減率(%)
カバークロップ	18,833	24	19,066	24	233	1.2
堆肥の施用	18,316	23	18,846	24	529	2.9
有機農業	13,471	17	13,402	17	▲69	▲0.5
地域特認取組	28,845	36	28,525	36	▲320	▲1.1
合計	79,465	100	79,839	100	373	0.5

表2 作物区分別の実施面積 単位:ha

	2018年度		2019年度		前年度との比較	
	面積	構成比(%)	面積	構成比(%)	対差	増減率(%)
水稲	54,376	68	53,449	67	▲927	▲1.7
麦・豆類	10,013	13	10,832	14	819	8.2
いも・野菜類	5,794	7	6,018	8	224	3.9
果樹・茶	1,805	2	1,933	2	128	7.1
花き・その他	7,477	9	7,606	10	128	1.7
合計	79,465	100	79,839	100	373	0.5

他の作物が増えている。特に、麦・豆類が1万820戸(8.2%)増えた(表2)。また、地域特認取組にみると、東北が1万8854戸(全体の24%)、次いで北海道1万4027戸(0.8%減)、近畿1万7358戸(22%)の順に多い。

多面的機能支払交付金は、農水省が有する多面的機能が適切に維持・発揮されるよう、地域共同活動を支援する。うち農地維持支払交付金は、農用地、水路、農道等の地域資源の基礎的な保全活動等への支援。対象は、中山間地域等直接支払交付金(1437、対象組織数2万6618)、交付金:平地との農業生産者(0.2%増)となつて

# 知っておきたい話

第89回

## 国民の犠牲の上に 一部の利益を追求

この7年8カ月で、一言でいえば、一部の利益のために農民、市民、国民が食いのためにされる経済社会構造が徹底された。手法的には、「人事・金、恫喝」を駆使して、「見事に正論を黙らせていった。

種子法の廃止、農業競争力強化支援法、種苗法、畜安法、漁業法、森林の2法、水道の民営化、などの一連の政策変更の一貫した理念は、間違いなく、「公的政策による制御や既存の農林漁家の営みから企業が自由に利益を追求できる環境に変えること」である。「公から民へ」既存事業者から企業へが共通理念である。しかも、極めて特定の人々がいとも登場する。「国家私

物化特区」でH県Y市の農地を買収したのも、森林の2法で私有林・国有林を盗伐して(植林義務なし)バイオマス発電するのも、漁業法改悪で人の財産権を没収して洋上風力発電に参入するのも、S県H市の水道事業を「食い逃げ」する外国企業グループに入っているのも、MTNコンビ企業である。有能なMTNは農業をするから、行政もやらなければならぬ。これを非効率というのだ。原野に戻せ」と言ったのは象徴的である。コロナ・ショックは、この方向性を下させられる最近の流れは、まさに断腸の想いだらうと察する。詭弁にもならぬ詭弁はひびきを増し、ますます、見え透いた虚偽を言わされていった。

官邸(官房長官)は反対する声を抑えつけていく「人事と金と恫喝」の天才だ。「畜安法」では、懸念を表明した担当局長(事務次官候補)と

# 7年8カ月の総括と今後に向けて

東京大学教授 鈴木宣弘氏



「公から民へ」既存事業者から企業へが共通理念である。しかも、極めて特定の人々がいとも登場する。「国家私

課長は「異動」になった。それでも、「省令で『いいこと』の二股出荷は拒否できないように規定するから」と担当部長は酪農関係者に説明している今、命・環境・地域・国土を守る特別な産業という扱いをやめて、農林漁業をお友達」の儲けの道具に捧げるために、農水省の経産省への吸収も含め、農林漁業と関連組織を崩壊・解体させる「総仕上げ」が進行した。次の前次官は食料安全保障もやっ

## 我が身を犠牲にする 覚悟あるリーダーに

現下の情勢では、国民の犠牲の上に自身とオトモダチの利益を守るために国民を犠牲にするリーダーではなく、我が身を犠牲にしても家族と地域と国民を守るリーダーが必要である。若い人たちは雌伏し、肉を食う条件で、同省が月齢制限を撤廃するのは、昨年5月の米国、カナダ、アイルランドに次いで4カ国目となる。

## フランス産牛肉の 輸入月齢制限撤廃 厚労省

厚労省は8月7日、フランス産の牛肉及び内臓(以下「牛肉等」)について、同日付で輸入条件を見直した。

本紙は無償で提供しています。ご希望の方はお知らせ下さい。

### 食料自給率 生産努力目標の達成状況

## 19年度 大豆、牛肉など未達

農水省はこのほど、食料自給率目標の前提として設定された主要品目の「生産努力目標」について、19年度の達成状況を公表した。大豆や牛肉などの生産量が目標を下回っている。政府は今年3月策定の新たな食料・農業・農村基本計画で、30(令和12)年度までにカロリーベースの食料自給率を45%に引き上げる目標を掲げ、19年度は、過去最低水準だった前年度から1割上昇し、38%となったが、低水準にとどま

	18年度 基準年度	19年度 実績値	30年度 目標年度	30年度 目標比
米	775	774	723	107.1
小麦	76	104	108	96.3
大豆	21	22	34	64.7
サツマイモ	80	75	86	87.2
パレイショ	226	240	239	100.4
野菜	1,131	1,166	1,302	89.6
果実	283	270	308	87.7
テンサイ	361	399	368	108.4
サトウキビ	120	117	153	76.5
生乳	728	736	780	94.4
牛肉	48	47	57	82.5
豚肉	128	129	131	98.5
鶏肉	160	163	170	95.9
鶏卵	263	364	264	137.9
魚介類 (食料)	335	315	474	66.5

注) 米は米粉用米、飼料用米を除く (農水省の資料から)

## 7月豪雨 農林水産被害 2000億円超

農水省は9月11日、7月の豪雨による全国の農林水産関係の被害額が、同日の集計時点(2020年9月11日)で2000億円を超えたと発表した。被害は九州を中心に全国に及んでい

梅雨前線が停滞し、全国で大雨が相次いだ。7月上旬の豪雨は九州を中心に甚大な被害をもたらした。下旬には東北を中心

被害種別	被害額(億円)
農畜産物等	193億7千万円
農作物、家畜、農業用ハウス、共同利用施設、畜産用施設、農業・畜産用機械等	
農地・農業用施設関係	982億1千万円
農地の損壊、ため池等の農業用施設	
林野関係	886億7千万円
林地荒廃、林道施設等	
水産関係	11億6千万円
養殖施設、水産物等	
合計	2074億1千万円

(農水省まとめ、9月11日時点)

の冠水が1万1316軒、56億7千万円、家畜(牛、豚、鶏)のへい死が13万9215頭羽で3億5千万円の被害が出た。農業用ハウスの被害は564件で5億7千万円、共同利用施設は109件で59億6千万円、農業・畜産用機械は2984件で52億円となった。農地への土砂流入やため池の損傷、浸水による施設の損壊など農地・農

業用施設関係は982億1千万円。また、土砂崩れによる林地荒廃や林道の破損など林野関係の被害も886億7千万円と多額になっている。政府は、先ごろ決定した「生活・生業支援パッケージ」に基づき、農地等の早期復旧、農業用ハウスの機械の再整備等により、被災した農林漁業者の経営再建を支援す

北海道・東北4県「やや良」 20年産米の作柄概況

農水省は8月28日、20年産米の作柄概況(8月15日時点)を発表した。東日本を中心とする「早場地域」19道県のうち、北海道や東北など主産地の作柄は概ね良好となった。一方、大豆、野菜、果実などの生産量は目標を下回った。大豆は麦類とともに、国内産の需要拡大が見込まれている。目標(34万ト)に対し、前年度の21万トから1万ト増にとどまり、目標比64%

同省は、主要品目のうち15品目について、生産努力目標の達成状況をまとめた。米、パレイショ、テンサイ及び鶏卵の生産量は、既に目標を上回っている。米(米粉用米、飼料用米を除く)は前年度並みの774万ト、目標(723万ト)に対して107.1%となった。小麦は目標(108万ト)を下回ったものの、前年度の76万トから104万トへと大幅に増え(目標比96.3%)、全体の食料自給率を押し上げた。

・7%と15品目中、最も目標との差が大きい。優良品種の開発・導入、農地の団地化などの推進が求められる。畜産物では、鶏卵以外は目標に達していない。牛乳、豚肉、鶏肉の生産量は前年度を上回った



## 「開拓之礎」

### 長野県軽井沢町・大日向開拓地



長野県の東部、群馬県境に位置する北佐久郡軽井沢町は標高900〜1000mの高原の町で避暑地、別荘地として有名。同町の大日向(おおひなた)開拓地は、南佐久郡の旧・大日向村(現・佐久穂町大字大日向)から久穂町大字大日向)から旧・満州(現・中国東北)部に開拓団として渡り、戦後に引き揚げた人たちが入植した地区である。満州移民政策で、町村ごとに農民を送り出す「一分移民」が推進された。大日向村は1937(昭和12)年、分村移民の旧・大日向村(現・佐久穂町)を計画。約220戸約680人が満州吉林省に渡り、第一の大日向村をつつた。しかし、45年の敗戦で、村民の生活は一変。逃避、引き揚げ中に食糧不足や寒さ、疫病などで多くの犠牲者が出た。苦難を乗り越えて46年に帰国した人たちが、大日向村に住む場

が、牛肉は減産となった。57万ト(枝肉換算)の目標に対し、前年度の48万トから1万ト減り、目標比82.5%だった。肉用牛生産は、中小・家族経営も含め生産性向上等による増頭、増産の推進が必要となっている。

農水省によると、全国の作付面積は前年度から微減にとどまる見通し。新型コロナウイルスの影響による業務用需要の減少で、例年以上に需要量が落ち込んでいる。需給が緩み、米価が低下することが懸念されている。

今年全国的に長梅雨となり、7月の低温・日照不足等による影響が見込まれていた。だが、田植え期以降、概ね天候に恵まれ、全毛ミ数が一部を除き平年並み以上に確保される見通しとなった。ただ、関東や近畿では、低温・日照不足の影響が大きかった。

大日向村に住む場

火山の砂礫が多い高冷地で、強酸性の土壌だった。肥料不足もあり、作物の生育は良くなかった。その上、冷害、霜害、浅間山噴火の被害など、農作物災害が多かった。開拓当初のジャガイモやソバの栽培から、酪農を取り入れ、やがては、キヤベツやレタスなどの高原野菜の栽培へと変わっていった。他産業への転

所はなかった。そのため、65戸168人は47年、浅間山麓の軽井沢町に入植。入植地を再び「大日向」と名付け、開拓を始めた。土地は払下げの国有林で、人力による森林伐採、一畝一畝の開墾は困難を極めた。開拓団員名が刻まれている。開拓歴史の末尾には、「三十九年九月一日皇太子殿下御一家の御来啓を賜る 団員総意により入植以来十五名の霊を合せて茲に謹んで慰霊碑の建立をなす」と記されている。

人の動き

新組合長に 乙部氏選任

ゆつき青森農協

9月後半から11月下旬にかけて予定されている、開拓組織及び関係団体の主な行事は次のとおり。

全開連人事

(8月31日付)

退職 池大克(西日本支所福岡事業所)

9月

30日 全開連理事会・監事会

27日 全開連第72回通常総会・理事会・監事会

26日 全日本開拓者連盟 中央常任委員会 全開連理事会

25日 全開連事業概況説明会(福岡会場)

6日 全開連東日本地区開拓牛枝肉共進会(東京食肉市場)

10月

28日 全国開拓振興協会 理事会

30日 全国肉用牛枝肉共進会(東京食肉市場) 励会(東京食肉市場)

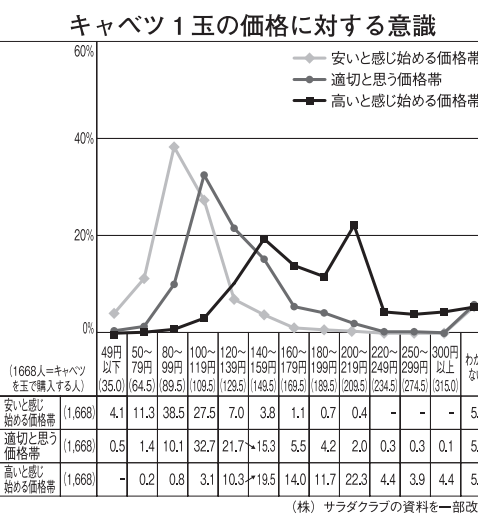
11月

5日 全開連事業概況説明会(福岡会場)

6日 全開連東日本地区開拓牛枝肉共進会(東京食肉市場)

# キャベツ「よく食べる野菜」トップ 「千切り」購入経験は女性で高く

「千切り」購入経験は女性で高く  
キャベツ1玉の価格に対する意識



「キャベツ1玉の価格に対する意識」(1,668人)は、「適切なと思う価格帯」が最も多く、次いで「安いと感じ始める価格帯」が28.6%、「高いと感じ始める価格帯」が15.3%だった。年代別に見ると、20代が最も高く、40代が最も安いと感じ始める価格帯を認めた。性別で見ると、女性が最も高く感じる価格帯を認めた。また、「千切り」の購入経験は、女性が男性より高く、64.9%の女性が購入経験があるのに対し、男性は61.3%だった。

### 米国に日本茶をアピール ネット購入の拡大目指す

JFOODO

日本食品海外プロモーションセンター(JFOODO)は、消費拡大を目指す。米国は、日本茶の輸出額が19年度までの直近5年間で14年度の2倍近く増加している。緑茶の市場規模も19年時点での約178億円と大きい。その中でも日本産緑茶の購入意欲が他の世代と比べて高い「ミレニアル世代(24~39歳)」をターゲットに販売を促進する。同世代はオンライン上で情報を収集する傾向が高く、プロシエクトで生産の過程や生産者の想いが見えるホームページを展開していく。ホームページ上では玉露・煎茶などのそれぞれの特徴・飲み方などが示されており、そのまま各種のシモン実施機関

# 機械作業の安全対策見直しを 20年秋の農作業安全確認運動始まる

農水省はこのほど、20年秋の農作業安全確認運動推進会議を開催した。今年度の運動の重点テーマは、「見直そう!」農業機械作業の安全対策。農



「見直そう!」農業機械作業の安全対策。農

進による事故防止③労災保険特別加入制度の加入促進④地域での事故事例や農作業安全リスキルアップなどを活用した「声かけ」⑤講習会や会議で安全意識の向上を図る「十(プラス)安全」の取組の推進などとなっている。

「千切り」の購入経験は、女性が男性より高く、64.9%の女性が購入経験があるのに対し、男性は61.3%だった。

「千切り」の購入経験は、女性が男性より高く、64.9%の女性が購入経験があるのに対し、男性は61.3%だった。

20年秋の農作業安全確認運動推進会議を開催した。今年度の運動の重点テーマは、「見直そう!」農業機械作業の安全対策。農

「見直そう!」農業機械作業の安全対策。農

「見直そう!」農業機械作業の安全対策。農

「見直そう!」農業機械作業の安全対策。農

「見直そう!」農業機械作業の安全対策。農

「見直そう!」農業機械作業の安全対策。農

「見直そう!」農業機械作業の安全対策。農

「見直そう!」農業機械作業の安全対策。農

「見直そう!」農業機械作業の安全対策。農

# トラクター等からの転落に注意

## 農業機械は使用方法再確認

9月から「秋の農作業安全確認運動」(4面に概要)がスタートしている。常に農業機械を正しく使用し、事故やケガの予防に努めなければならない。

農研機構革新工学センターは、ウェブサイト「農作業安全情報センター」内で、農業機械の安全利用に関するポイントをまとめている。その中から重要な点を紹介する。

### 全機種共通事項

農業機械は、年中は使わないことが多く、使用方法を忘れがちである。シーズン前には、取扱説明書をよく読んで使用方法を確認するとともに、点検・整備する。よく読む部分はコピーし、機械にぶら下げておくのも有効。

機械からの転落事故が多く発生して

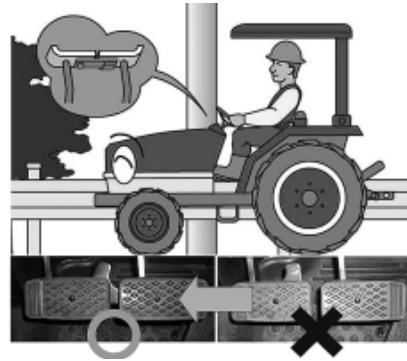
いる。その原因は「滑った」「足場や手がかりが壊れた」「振り落とされた」「大丈夫と思って飛び降りた」など。乗り降りには機械と向き合った状態でいい、背を向けない。物を手に抱えたままの乗り降り、飛び乗り・飛び降りはない。

機械に手や足を巻き込まれる事故の多くは、衣服が巻き込まれることによって発生している。作業服のそで口は閉じ、ズボンのすそはバンドで留めるか長靴の中へ入れる。

### 乗用トラクター

トラクターの転倒や転落による死亡事故のほとんどは、ほ場や農道で起きている。路肩が分かるように草刈りをしたり、目印を立てたりしておく。ほ

図1 道路走行時の左右ブレーキ連結



場の出入り口では、傾斜方向に対して平行に進入する。出入り口の斜面が削れて丸くなっていると、車輪が浮き非常に危険である。万が一に備えて、安全フレーム・キャブが装着されたトラクターを使用する。

ブレーキは左右で分かれており小回りが効き便利な一方、道路へ出る際や道路走行時に連結操作を忘れていたために転落・転倒する事故が多く起きている。ほ場の出入り、移動走行、傾斜地作業、畝の乗り越え、トラック等への積み込みを行う際は左右ブレーキを

図2 作業機の下は危険



図1、2ともに農研機構革新工学センターの資料より

連結しているか確認する(図1)。

作業機からの異音に対して、慌てて機械の中や下をのぞきこむことは非常に危険(図2)。点検や調整を行う前に以下の①~⑤の対策を施し、安全な状態にする。①作業機を上げる②昇降部の油圧ロックを掛ける③駐車ブレーキを掛ける④エンジンをオフにする⑤ブロック等を作業機の下に入れて支える。

トラクターは重心が後ろにあることが多く、後方転倒しやすい。トレーラー等をけん引する場合には、専用のけん引かん(ドロバー)を使用する。ワイヤーやスリングでけん引する場合、後車軸よりも低い位置に結び付ける。

# 天候不良で冬ニンジンなど減少

## 19年産秋冬野菜等収穫量

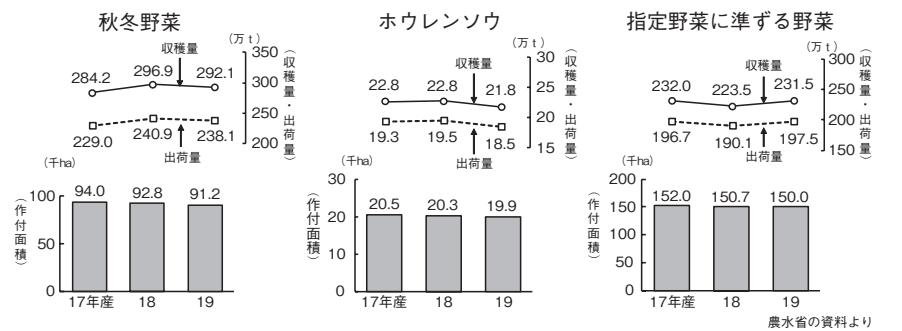
農水省はこのほど、「19年産指定野菜(秋冬野菜等)及び指定野菜に準ずる野菜の作付面積、収穫量及び出荷量」を公表した。指定野菜のうち、収穫量が著しく伸びた品目はなかった。一方、根菜類は天候による影響を受けたため、概ね減少した。

### 秋冬野菜

全体の作付面積は前年産より1600

ha(2%)減の9万1200haで、収穫量が4万8000t(2%)減の292万1000t、出荷量が2万8000t(1%)減の238万1000tとなった。

収穫量が伸びた品目は冬キャベツと秋冬ネギのみで、それぞれ4%増、2%増となっている。収穫量が減った品目をみると、秋植えバレイショが8%減、冬ニンジンが7%減、秋冬ダイコンが



4%減などとなっている。

収穫量が減少した主な原因として、秋植えバレイショは、長崎県で他の野菜への転換により作付面積が縮小したことによる。また、鹿児島県で根付け後の高温の影響で生育が抑制され10a当たり収量が減った。冬ニンジンは、9~10月の台風・長雨などの影響で生育が抑制され、10a当たり収量が前年を下回ったことによる。

### ホウレンソウ

作付面積は前年産より400ha(2%)減の1万9900haで、収穫量が1万500t(5%)減の21万7800t、出荷量が9900t(5%)減の18万4900tとなった。

### 指定野菜に準ずる野菜

全体の作付面積は前年産並みの15万

haだったが、収穫量は8万t(4%)増の231万5000t、出荷量は7万4000t(4%)増の197万5000tとなった。

収穫量が伸びたのは、27品目中18品目と前年より多い。最も伸びたのはカボチャで17%増。次いで、ヤマノイモとスイートコーンがともに10%増となった。いずれも、主に北海道で天候に恵まれ、10a当たり収量が前年産を上回ったことが大きな原因。

収穫量が減った品目をみると、レンコンが14%と、最も減少率が大きい。茨城県等での台風の影響により、茎葉の損傷が発生。肥大が抑制されたため、10a当たり収量が低下した。

その他の品目の収穫量は、イチゴとメロンが2%増、アスパラガスが1%増などとなっている。

## 影響実態と対策効果の整理を リンゴの気候変動適応ガイド

農水省はこのほど、「気候変動適応ガイド(リンゴ編)」を公表。同ガイドは、気候変動による農業への悪影響が年々大きくなっていることを受け、産地自らがリスク管理や適応策を実行する際の指導の手引きで、地域の農業リーダーにも参考になる内容としている。

高温によるリンゴへの影響は、日焼け果、着色不良、着色遅延、虫害の多発、凍霜害、発芽・開花期の前進などが報告されている。外観の品質低下は販売価格にも影響し、収入減や産地ブランド低下につながるため、適切な対策が求められる。

同省の将来予測では、現在のペースで温室効果ガスの排出が進んだ場合、2046~55年頃には関東内陸部や本州日本海側まで栽培に適さない高温地域が広がるとされている。果樹は、一度植

栽すると30年程度は栽培が続くため、気候変動の影響を受けやすい。そのため、適応策の実施が必要。すでに高温耐性品種や細霧冷房装置など各地で適応策が考案されている。作業資材を共有できるモモへの改植を進めている地域もあり、他品目の導入や複数品種の栽培による作期分散でリスクを軽減している。

気候変動影響は品種や地域により様々で、導入する適応策は産地が主体的に考える必要がある。気候変動影響の実態把握と現在実行している適応策の効果を併せて考える。影響や技術導入効果を整理する際、自治体、農協、関係者等がともに行っていく。

整理した情報や将来予測を踏まえて、産地の「優先課題」を特定する。課題に対して適応策リストを作成し、コストや要する時間などを比較。産地の目標とする姿を踏まえた「実行計画」を定める。適応策の進捗状況や効果を評価し、適宜見直しを図る。

## 農業共済 保管中損害を補償 収穫後の果実対象に

農業共済(NOSA I)団体は、収穫後の果実を補償対象に含める「保管中農産物補償共済」を今月からスタートした。

これまで収穫後の補償は、米・麦・大豆を対象に行ってきた。新たに温州ミカン、リンゴ、ナシなどの果実が対象に加わる。

倉庫等に収容されている農産物及び

運送中の農産物を補償するもので、補償対象は農産物共済・果樹共済・畑作物共済に加入している農産物のうちから、加入者が選択する。

自然災害(風水害)、火災、落雷、保管建物の倒壊、運送中の事故による損害を補償する。

補償期間120日で一時保管向けのAタイプ(1品目1口2500円)と1年補償で通年保管向けのBタイプ(同6500円)がある。1品目1口当たり100万円を上限に、実損害額が支払われる。

## 遮へい壁から散水で臭気拡散抑制

### 「悪臭苦情軽減技術の手引き」から

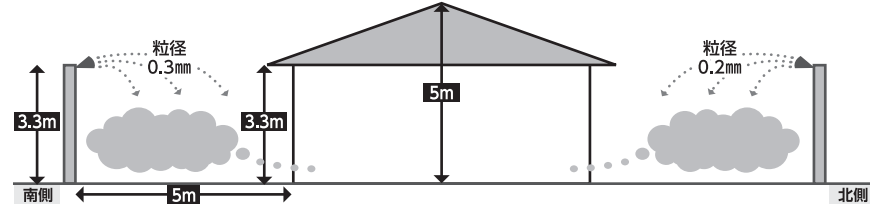
畜産への苦情は悪臭関連が半分以上を占める。臭気は、目に見えず対応が難しい。周囲に拡散しないような技術の開発が望まれている。

(一財)畜産環境整備機構は、「畜産悪臭苦情軽減技術の手引き」を作成・公表した。悪臭が特に問題となる豚舎周りなどでの試験から得られた、臭気対策の成果がまとめられている。

①遮へい壁を利用した脱臭技術  
豚舎棟の高さ分離した位置(約5m)に、のき高さ(約3.3m)の遮へい壁を設置。遮へい壁上部に散水ノズルを組み合わせることで、臭気の拡散を抑制できるか試験を行った(図1)。

試験では、開放豚舎の周囲に壁を設置。散水ノズルの粒径が0.2mm以上であれば、遮へい壁のみの場合と比べて、

図1 システムの概略



## 分娩前後のエネルギー不足に注意

### 乳牛のケトosis予防

牛の体内で糖質と脂質のバランスがくずれると、ケトン体が分解できずに蓄積されケトosisを引き起こす。採食量の落ち込み、急激なやせを示すのが特徴。予防に重要な点をまとめた。

#### 乾物摂取量の確保

分娩直後の牛は、食欲の減退から代謝エネルギー不足を招きやすい。不足

するエネルギーを補うため体脂肪を分解するが、肝機能障害によりうまく代謝ができず、ケトン体が多量に生成される。乾物摂取量を落とさないように、泌乳後期から適正な管理をすることが重要。特に、分娩前後の移行期にエネルギー不足にならないようにする。

泌乳後期のBCS(ボディコンディ

## 頭数確認や施錠徹底を

### 北関東で家畜盗難被害多発

6月頃から栃木、群馬、茨城などで子牛や子豚の窃盗事件が多発している。子牛は数頭、子豚は数百頭規模の被害とみられている。経済的な損失のみならず、営農意欲の低下、家畜疾病の農場内への侵入及びまん延につながるおそれがある。

農水省は、警察庁の協力を得て、畜産業における防犯のポイントを整理し、注意を呼びかけている。

#### 生産者が行う取り組み

①家畜の飼養頭羽数を小まめに確認し、盗難の被害が発生していないか早期に確認する。

②農場出入口、畜舎、飼料庫、機械倉庫などの窓や出入口は施錠を徹底する。

③農場の機材などが盗難に利用されないよう、小まめに整理整頓する。

④農場、畜舎周辺にネットや柵などを設置し、侵入しにくい環境を作る。

⑤外部の通行人から見える敷地内や

畜舎周辺に「盗難防止警戒中」「立入禁止」「防犯カメラ作動中」などの看板やのぼり旗等を設置する。

⑥ホームセンターなどで数千円から購入できる防犯カメラ、センサーライト等を設置する。

⑦不審者・不審車両を見かけた際や被害が判明した場合は、速やかに警察に通報する。

⑧防疫の観点から、農場出入口や畜舎周辺などでの石灰散布等の消毒をまんべんなく実施する。

#### 地域、関係事業者で行う取り組み

①地域の相談窓口を設置する。

②地域や周辺で被害が発生した場合は、速やかに生産者へ注意喚起を行う。

③盗難被害に遭わないための対策などについて、生産者が集まる機会やチラシ、広報誌、SNS等で情報発信を行う。

④盗難が疑われる家畜や盗難家畜由来と思われる食肉を確認した場合は、警察に相談する。特に牛は、個体識別番号の確認を行う。

⑤地域の生産者団体や警察等と連携して防犯パトロールを実施する。

図2 縦型脱臭装置の概要

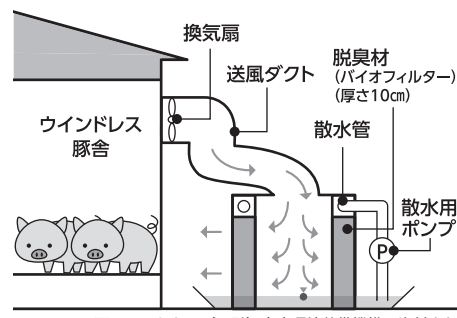


図1、2ともに(一財)畜産環境整備機構の資料より

豚舎外の臭気を低減させることができた。

遮へい壁や部材などを含めたコストは、遮へい壁面積3.3m×45mと3.3m×65mの合計368㎡で、183万4079円だった。

#### ②バイオフィルター脱臭装置

ヤシガラハスクを脱臭資材とした、厚さ10cmのバイオフィルターからなる脱臭装置。子豚舎の換気空気を脱臭するシステムとなっている(図2)。設置面積の小さな縦型脱臭槽とした。

シヨンスコア)は、3.5までに抑えておく。太っている牛ほど体脂肪でエネルギー不足を補おうとするので、代謝バランスがくずれやすい。

太らせずに乾乳を迎えることが大切。太りすぎの牛は、分娩後に乾物摂取量が落ちる。乾乳後期には泌乳用飼料に馴らし、乾物摂取量を最大にする。酪酸発酵のサイレージを与えると肝

装置に入る前と通過した後の換気中に含まれる臭気を測定したところ、臭気指数相当値が通過後で大きく低下しており、不快臭の原因となっている有機酸系の臭気を低減することが確認できた。

同機構は、普及に向けさらなる装置の簡易化と低コスト化が必要だとしている。

#### ③臭気軽減資材の効果

市販されている飼料添加型資材による臭気低減効果を検証。8資材を肥育豚へ3週間給与したところ、無添加と比べてふん臭の低減は認められなかった。

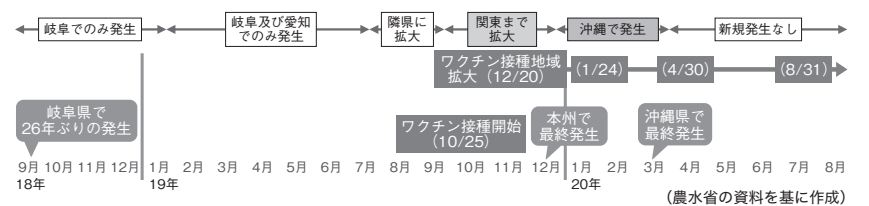
一方、ふん中の水分含量が低下し、明らかに下痢の症状を示す豚が少なかった。このことから、清掃時のハンドリングのしやすさ、汚物感の減少、堆肥化時の副資材の使用量減少などの効果があると考えられた。

機能負荷が増え、発症の原因となる。そのようなサイレージは与えず、不良発酵を招くようなサイレージ調製は行わない。

#### 添加剤などの利用

発症の危険性が高い場合は、分娩前後に与える飼料添加剤や分娩直後に飲ませる栄養剤などの利用が有効。他の周産期病の予防にも効果的である。

## 豚熱発生から2年、非清浄国に 農水省「今後もイノシシ捕獲強化」



国内での豚熱(CSF)発生から9月で2年が経過した。今年3日、国際獣疫事務局(OIE)の定める要件が満たせなかったため、日本は清浄国のステータスを失った。農水省は、豚の飼養衛生管理基準遵守の徹底や野生イノシシ対策に取り組み、清浄国復帰を目指すとしている。豚熱はこれまで、8県で58事例が発生。殺処分頭数は約16.6万頭に及んだ。昨年10月からは飼養豚への予防的ワクチン接種を開始。直近の発生は3月の沖縄県の養豚場で、本州では昨年12月の愛知県での事例を最後に発生していない。一方、野生イノシシの感染拡大は続いている。今年9日には、東北地方では初となる福島県で確認された。

同省は、清浄国であるメリットとして、「米国やEUなど新たな輸出先の開拓」「非清浄国からの輸入解

禁要請に対して優位な立場」を挙げ、ステータス再取得に向けた道筋を立てている。

早期復帰のため、接種豚と野外ウイルス感染豚との区別が可能な「国産マーカーワクチン」の開発を開始。また、飼養衛生管理基準遵守の徹底で飼養豚と野生イノシシの遮断を目指す。

現在、豚熱の陽性が確認されている県及びその隣接県である25都府県に捕獲重点エリアを設定。わな設置数を増やすなどして野生イノシシ捕獲を強化している。

経口ワクチンは、昨年3月からこれまで23都府県で約60万個を散布。同省は、人の立ち入りが困難な山岳地帯において、昨年11月からヘリコプターによる空中散布の実証試験を経て、手順書を作成。民間企業等に向けた説明会を開催済みで、今後の空中散布効率の向上が期待される。

兵庫県農業共済組合

# 黒毛和種 断角角度工夫し飼育効率化 地面と平行なカットがポイント

除角や断角は牛の外傷、枝肉の瑕疵(アタリ)を防ぎ、飼養者がケガなどを負わないために重要となる。導入した肥育素牛を断角する場合、角度を工夫しなければ目の近くに突き刺さるように角が伸びてくる。兵庫県農業共済組合(NOSAIひょうご)では、黒毛和種の断角時の角度を工夫することにより、これらのトラブルの軽減効果がみられた。ここではその方法を紹介する(今回は一部の角根部を残しているため断角と表現している)。

### 手順

断角には、枝切りバサミ、断角用のガス式焼きごて機、止血用ゴムバンド、器具消毒薬、鎮静薬の注射、塩酸プロカイン(局所麻酔剤)を使用した。保定後にゴムバンドで角根部を圧迫し、鎮静状態になった後に麻酔を注射した。枝切りバサミで断角後、焼きごてで止血した。

カットする位置は、一般的な角底部付近ではなく、頭頂部と同じ角度で地面に平行な部分とした(写真)。

### 結果

角度を工夫して断角したため、角が伸びてきた後も、湾曲して牛のこめかみに突き刺さるトラブルを防ぐことができた。角を残しているため、断角直

後でも捕獲が容易。また、角の先端のみカットすることも試みたが、角が湾曲せずまっすぐ伸びてしまうため、写真の方法が最も適切とみられた。

断角区と無断角区を設けた試験を実施したところ、断角区ではアタリの発生が8分の1になった。改めて断角はアタリの減少に効果があることが実証された。また、断角により採食時の攻撃性が減少し、牛の扱いが容易になるという効果もみられた。

動物福祉の面から除角や断角には否定的な意見も存在するため、麻酔を使用し、適切な手順で牛の負担を軽減することが今後ますます重要となる。

同組合は注意点として、牛の大きさなどに合わせて行うことを挙げている。



写真提供: NOSAI ひょうご

## 牛舎周り、蚊の対策が重要 草刈りや片づけ徹底

牛の近くには様々な害虫が寄ってくるが、暑さが落ち着き始めても蚊の発生が心配される。蚊は様々な病気のウイルスを運ぶ感染源となるため、蚊を寄せ付けず、なるべく減らす対策を講じることが重要となる。

### ○増やさない

蚊の幼虫(ボウフラ)は、小さな水たまりに発生する。水たまりは放置せず、水を掃くなど対策を講じる。植木鉢の受け皿やバケツ、古タイヤ、空き缶など、水がたまりやすい場所はひっくり返して水がたまらないようにする。

また、不要なものが散乱している環境も発生の原因となる。畜舎内外の掃除・片づけを徹底し、天井・壁・床などに付いたほこりなどを取り除く。

### ○刺されないようにする

牛舎付近の草むらやヤブは定期的に草刈りをして風通しを良くし、成虫が隠れる場所を無くす。低い木や地面近くのツタの葉裏にも隠れているため、注意が必要。防虫ネットなどで侵入を

防止し、殺虫剤も活用する。殺虫用イヤータグなどの忌避剤も有効。

蚊を増やさない・寄せ付けないことが重要となる。

牛の飼養管理を日々行う環境には、様々な病気やウイルスの感染などの危険が各所にひそんでいる。これまでも国や自治体が基準を定めて対策を呼びかけてきたが、今年6月30日付けで改正された新しい飼養衛生管理基準が、10月1日から牛に適用となる。

新しい基準での変更点を確認し、10月に入る前に準備を済ませておくことが求められる。

### ●家畜防疫関係

伝染病の予防やまん延の防止に対する家畜所有者の責務が明確化される。その他の関係者と協力して防疫体制を整える。家畜防疫の最新情報をよくチェックする。

また、猫などの愛玩動物を衛生管理区域内で飼うことや、区域内に入ることが禁止される。伝染病が広

## 肥育牛の夏バテ対処を

### 猛暑の影響でビタ欠注意

気温が最も高い時期は終わったが、気温が落ち着いてきても、牛の体にはダメージが残っている。また、近年は9月になっても真夏の気温を観測することが増えており、安心できない状況となっている。

内臓のトラブルを中心に様々な問題が出る可能性があるため、図の対策を講じ、これらの夏バテによるトラブルにはなるべく早く対処する。さらに、以下のことに気を付けることが重要となる。

### 第一胃の発酵を整える

食欲の低下や軟便、よだれを垂らしている牛は、異常発酵によりルーメンアシドーシスになっている可能性が考えられる。ルーメンアシドーシスは第一胃内に毒素が産生されて肝機能にも影響するため、よく個体観察し、放置しないようにする。

### ビタミンAの欠乏に注意

暑さでビタミンA消費が激しくなり、血中濃度が低くなりがちになる。

### 夏バテの対策方法

第一胃発酵の安定
生菌剤や機能性飼料などを給与する。吸着剤の給与も効果的。
肝機能低下の対応
混合ビタミン剤などの強肝剤やビタミンEを補給する。
ビタミンA欠乏の対応
ビタミンAの添加を行う。亜鉛製剤を同時に給与すると効果的。ビタミンAの量は獣医師と相談する。
飼料中の油脂酸化の対策製剤
飼料中の油脂が酸化しないよう、こまめに飼料の注文を分ける。ビタミンEなどの抗酸化剤の飼料添加も効果的。

その状態が続くと熱射病や肝障害、第一胃の異常発酵などの原因となる。見回り時、ビタミンA欠乏の症状が出ていないか個体観察を徹底する。呼吸が早い、瞳孔が開いている、エサ食いが落ちる、脚の関節の腫れがある、などの症状に気を配り、見つけたら獣医師と相談する。

### 油脂酸化に注意

飼料中の油脂は熱で酸化毒物に変化しやすい。牛の体内に入ると肝臓、すい臓、小腸など様々な臓器の負担になる。枝肉の品質劣化にも繋がるため、注意が必要となる。

## 交雑・乳用種ともに減額 牛マルキン7月分

農畜産業振興機構はこのほど、20年7月販売分の肉用牛肥育経営安定交付金制度(牛マルキン)の交付金単価(概算払)を公表した。交雑種と乳用種で交付が行われる。

新型コロナウイルス収束のめどが立たないことなどにより、販売価格の低迷が続いていることから、交雑種は6

ヵ月連続、乳用種は49ヵ月連続の発動となった。

1頭当たりの交付金単価は、交雑種が17万6387.9円、乳用種が3万5031.2円となった。前月に比べて交雑種は販売価格の上昇などで1万4026.0円、乳用種は素畜費の低下などで1万3047.7円減額した。

積立金が不足する都道府県では、国費分のみ(4分の3相当額)の支払いとなる。

まりやすい密飼いの防止も徹底する。

### ●衛生管理区域の防除

立ち入った者の氏名・住所、仕入れ先農場などの情報や導入年月日などを必ず記録に残し、少なくとも1年間は保存する。また、農場ごとに担当の獣

## 畜舎ごとに専用の靴を

### 10月から新・飼養衛生管理基準に

### ネズミ・害虫の駆除も

医師または診療施設を決定し、定期的に牛の健康管理の指導を受けることが求められる。

衛生管理区域専用の服や靴を用意(上から着用する専用の服やカバーも含む)し、立ち入る者に対し着用を徹底

する。着脱前後の服や靴は、農場からスノコや分離板などで場所を離して保管し、着脱のために利用する経路は一方通行とする。区域に出入りする車両も、農場専用のフロアマットなどを使用し、交差汚染の防止を徹底する。

### ●病原体による汚染拡大防止

衛生管理区域専用のものでなく、畜舎ごとに専用の靴を設置することが求められる。靴に排せつ物やドロなどが付いた時には洗浄し、こまめな消毒を行う。また、ネズミや害虫などの駆除のため必要な措置を講じる。野生動物が隠れられる場所を作らないよう、不要な資材の処分・整理整頓、定期的な草刈りや消毒を行う。

### ●区域外への病原体の拡散防止

家畜の排せつ物などが付着した恐れのある物品を衛生管理区域から持ち出す場合には、洗浄・消毒などを行う。

# 畜産物需給見通し

## 牛枝肉

コロナの外食への影響長引くも  
内食需要強く

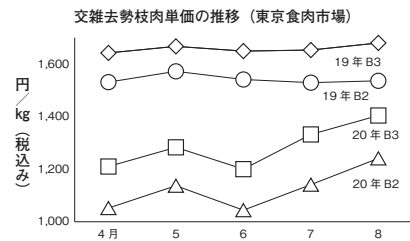
8月は新型コロナウイルス感染再拡大に伴う外出自粛の影響で、外食や行業需要が例年に比べ振るわなかった。相場が全体的にもちあいで推移する中、交雑種(F<sub>1</sub>)は続伸した。

【乳去勢】8月の東京市場乳牛去勢B2の税込み平均枝肉単価(速報値、以下同じ)は890円(前年同月比87%)となり、前月に比べ27円下げた。

農畜産業振興機構の需給予測によると、9月の乳用種の全国出荷頭数は2万7000頭(96%)と減少基調が続くと見込んでいる。

【F<sub>1</sub>去勢】8月の東京市場の交雑種去勢税込み平均枝肉単価は、B3が1405円(前年同月比85%)、B2は1246円(82%)となった。前月に比べそれぞれ97円、108円上げた。出荷頭数がやや少なく、前月に続き強含みの展開となった。

同機構は、9月の交雑種の全国出荷頭数を1万8200頭(96%)と減少基調が続くと予測している。



【和去勢】8月の東京市場の和牛去勢税込み平均枝肉単価は、A4が2055

円(前年同月比87%)、A3は1846円(86%)となった。前月に比べどちらも34円の上げで、ほぼもちあいだった。

同機構は、9月の和牛の全国出荷頭数を3万6200頭(102%)と増加を予測している。全体の出荷頭数は8万2900頭(99%)と、前年同月をわずかに下回ると見込んでいる。

一方、9月の輸入量は総量で4万7900t(95%)と予測。内訳は冷蔵品2万1400t(100%)、冷凍品2万6500t(91%)。冷凍品は国内在庫が高水準にあること等から、前年同月をかなりの程度下回ると見込んでいる。

新型コロナウイルス感染拡大の外食産業への影響が長引いている。一方、内食需要の高まりで、引き続き量販店向けなどの引き合いが見込める。

牛全体の出荷頭数は前年同月を下回るとの予測だが、時期的に消費の端期であることや、在庫も多いことから、相場は総じてもちあいで推移すると予想される。

向こう1ヵ月の東京市場の税込み平均枝肉単価は、乳牛去勢B2が900~950円、F<sub>1</sub>去勢B3が1300~1400円、B2は1100~1200円、和牛去勢A4が1950~2050円、A3は1750~1850円での相場展開か。

### 8月の子牛取引状況

(頭、kg、円)

ブロック	品種	頭数		重量		1頭当たり金額		円/kg	
		当月	前月	当月	前月	当月	前月	当月	前月
北海道	乳去	568	648	290	291	235,498	231,908	812	797
	F <sub>1</sub> 去	1,255	1,151	318	318	372,557	387,279	1,172	1,218
	和去	725	1,852	316	313	676,836	660,211	2,142	2,109
東北	乳去	7	9	277	199	201,143	87,633	725	440
	F <sub>1</sub> 去	1	10	280	320	297,000	426,030	1,061	1,331
	和去	1,693	1,903	308	307	662,483	618,524	2,151	2,012
関東	乳去	55	72	277	283	267,120	282,134	965	997
	F <sub>1</sub> 去	89	83	299	311	383,529	397,749	1,283	1,277
	和去	963	771	268	263	651,713	609,802	2,436	2,320
北陸	乳去	-	-	-	-	-	-	-	-
	F <sub>1</sub> 去	-	-	-	-	-	-	-	-
	和去	-	119	-	277	-	722,977	-	2,610
東海	乳去	8	12	289	293	253,687	248,050	878	848
	F <sub>1</sub> 去	45	50	293	286	372,581	348,370	1,270	1,218
	和去	255	439	256	263	704,866	707,981	2,757	2,690
近畿	乳去	-	1	-	129	-	200,200	-	1,552
	F <sub>1</sub> 去	-	2	-	185	-	344,300	-	1,861
	和去	189	422	259	261	690,898	639,715	2,668	2,452
中四国	乳去	48	65	264	263	212,391	225,313	805	857
	F <sub>1</sub> 去	206	214	310	311	374,021	365,816	1,208	1,175
	和去	445	795	286	286	664,914	642,839	2,326	2,248
九州・沖縄	乳去	16	28	287	291	206,799	224,203	719	770
	F <sub>1</sub> 去	310	281	315	306	386,664	376,704	1,226	1,230
	和去	6,895	9,517	291	293	684,335	684,936	2,348	2,338
全国	乳去	702	835	287	287	235,606	234,106	821	816
	F <sub>1</sub> 去	1,906	1,791	316	314	375,483	382,623	1,188	1,219
	和去	11,165	15,818	292	293	677,527	668,117	2,320	2,280

注：(独)農畜産業振興機構の公表データを基に本紙集計、当月は暫定値。価格は消費税込み、重量・金額・単価は加重平均。-は上場がなかったことを示す。関東ブロックは山梨県、長野県、静岡県を含む。

## 交雑種は前年同期比約10%減

### 下半期、と畜頭数見込み

農畜産業振興機構は8月27日、20年下半期(7~12月)の牛のと畜頭数見込みを公表した。交雑種は前年同期をかなり下回り、約10%減と予測している。

(独)家畜改良センターの牛個体識別情報を基に、と畜場稼働日数を加味して算出。交雑種は、乳用種雌牛の減少に加え、乳用牛への受精卵移植による和子牛の生産拡大や、性選別精液の活用による乳用後継牛の確保の動きがあり、生産頭数が減少したことから、下半期のと畜頭数は前年同期比約10%減の見込み。各月、去勢・雌牛合計で2万頭を下回って推移すると見通している。

乳用種(雌牛含む)は、交雑種と同様な理由により、乳牛去勢の減少が続くと見込まれることから、約4%減の見込み。

## 豚枝肉

内食需要継続も  
出荷頭数増で、  
小幅に下げるか

8月の東京食肉市場税込み平均枝肉単価は、上物が634円(前年同月比113%)、中物は613円(113%)となった。前月に比べそれぞれ7円、9円下げた。

新型コロナウイルス感染再拡大に伴う家庭内食需要が堅調だったことに加え、猛暑の影響で全国的に出荷頭数が伸び悩んだことから、高値の相場が継続した。

農水省の肉豚生産出荷予測によると、9月は133万7千頭(前年同月比104%、過去5年同月平均比102%)、10月は148万8千頭(102%、103%)と前年及び平年を上回って推移するとみている。

## 乳素牛

乳素牛・和子牛  
もちあい、スモ  
ールは小戻すか

【乳素牛】8月の乳素牛の全国1頭当たり税込み平均価格(左表、月末の取引結果を除く暫定値)は、乳去勢が23万5606円(前年同月比106%)、F<sub>1</sub>去勢は37万5483円(81%)だった。前月に比べ乳去勢は1500円上げ、F<sub>1</sub>去勢は7140円下げた。乳去勢の価格は横ばいで推移している。

F<sub>1</sub>の枝肉相場が上向いてきたが、当面は両品種とももちあいで推移するとみられる。

【スモール】8月の全国23市場の1頭当たり税込み平均価格(農畜産業振興機構調べ、暫定値)は、乳雄が9万8243円(前年同月比90%)、F<sub>1</sub>(雄雌

和牛については、繁殖雌牛の増頭に加え、乳用牛への和牛受精卵移植などにより、約3%増と見込んでいる。牛全体では約1%減とみている。

下半期の枝肉相場を見通すと、新型コロナウイルス感染拡大の外食産業への影響により、例年のような大幅な上伸は考えにくい。ただ、肉類の内食需要は強い。総務省統計局の家計調査によると、20年上半期(1~6月)の牛肉への支出金額(二人以上の世帯1世帯当たり)は2月以降増加し、上半期合計で前年同期比11.8%増の1万1271円となった。豚肉、鶏肉も同様で、それぞれ1万6361円(10.9%増)、8630円(10.5%増)となった。

値ごろな国産牛肉である交雑種、乳牛去勢については、と畜頭数の減少が見込まれていることもあり、相場が上げ基調となる可能性がある。

農畜産業振興機構の需給予測によると、9月の輸入量は総量で7万1100t(前年同月比91%)の見込み。内訳は冷蔵品3万1900t(109%)、冷凍品3万9200t(80%)。冷蔵品は前年同月の輸入量が台風の影響で少なかったこと等により、前年同月をかなりの程度上回ると予測している。冷凍品は国内の在庫量が高い水準にあること等により、前年同月を大幅に下回ると見込んでいる。

新型コロナウイルスの影響で、引き続き堅調な内食需要が見込まれる。一方、出荷頭数は増加傾向になると予測されている。相場は、小幅に下げる展開が予想される。

向こう1ヵ月の東京食肉市場税込み平均枝肉単価は、上物が600~630円、中物は550~580円での相場展開か。

含む)は18万5412円(65%)となった。前月に比べそれぞれ1万7749円、2万6594円下げた。両品種とも、前月に続き北海道で値を下げた。

2ヵ月連続で大きく値が下がった反動で、両品種とも小戻す展開が予想される。

【和子牛】8月の和子牛去勢の全国1頭当たり税込み平均価格は、67万7527円(前年同月比85%)となった。前月に比べ9410円上げた。8月は子牛の開催市場数が少ないため、引き合いが強まった。東海、九州は前月並みだった。

和牛の枝肉相場は、5月から小幅に上げている。だが、子牛の開催市場数・取引頭数が多くなる時期であり、もちあいの展開が予想される。